

# 学校欠席者情報収集システムのメリットについて

～毎日のシステム入力で感じること～

鳥取県立鳥取東高等学校 養護教諭 西尾 美由紀

## 1. はじめに

本校は1学年8クラス計24クラス、生徒数961名、養護教諭は複数配置の普通科高校です。毎朝「学校欠席者情報収集システム」（以下システム）の生徒状況入力は養護教諭が、教職員の入力は教頭が担当して行っています。

システム入力を行うようになって3年目を迎えますが、県内の児童生徒の感染者数がリアルタイムに把握できることのすばらしさを日々実感しています。システムが導入されていない頃は、「今日県内ではインフルエンザで何人の児童生徒が欠席しているのだろうか？」と、把握できない状況でした。

2009年の新型インフルエンザ発生時もそうでしたが、いかに学校での集団感染を防ぐことができるか、また、発生した場合最小限の感染にとどめることができるかが地域の感染拡大をくい止めることにつながります。このシステムは、感染症の早期対応の情報であり危機管理の大きな役割を担うことができるシステムだと思います。

## 2. システム入力の流れ

システム入力にかかる時間はわずか5分程度で、大きな負担ではありません。負担が少なくメリットが大きいのがこのシステムの利点とも言えます。

本校のシステム入力の流れを紹介します。

### システム入力の流れ

入力わずか5分！

- (1) 毎朝のSHRで学級担任が健康観察を実施
- (2) SHR後学級担任が健康観察ファイルを職員室のボックスに入れ、養護教諭が回収
- (3) 養護教諭は健康観察ファイルを見ながら感染症による欠席生徒数をシステムに入力
- (4) 教職員の欠席者数を教頭がシステムに入力

本県では、県立学校は午前中に入力することになっており、当日の正午には県内の県立学校の感染状況を知ることができます。また、全県の幼稚園、小・中学

校の様子も昼には見ることができ、同様に全国の様子もわかります。このシステムの画期的なところは、県内、県外の本日の児童生徒の感染症発生状況を、見たい範囲をクリックすることで簡単に検索できるという点です。

本校では、インフルエンザが流行している今、システムの“地域の状況”を見ながら養護教諭同士で、「今日は県立学校では〇人インフルエンザが発生しているし、〇〇地域では〇人発生しているから、予防対策を徹底しないとイケないですね。」と、インフルエンザの発生状況が毎日の話題になっています。

## 3. システム活用のメリット

実際にシステムを活用することで、いくつかメリットを感じていますので紹介します。

### メリット1

本校生徒の感染者発生状況が、その日の朝に管理職・学校医と情報共有できる

毎朝、システムに感染症発生状況を入力することで、管理職や学校医と情報の共有化を図っています。また、インフルエンザ等の感染症が集団発生した場合、または発生する可能性がある場合、保健室と管理職、保健室と学校医がそれぞれのシステムの画面を見ながら今日の感染状況を話し合うことが可能です。

### メリット2

中学校区、市町村別、県全体、全国の今日の感染症の状況が把握可能

インフルエンザが流行する今の時期は、『今日の中学校区でのインフルエンザ発生状況は？』と気になります。このシステムではすぐに人数把握をすることが可能です。もちろん県全体、全国の発生状況もリアルタイムに検索可能です。

また、欠席者が急増した場合はアラートによる色表示がされ、一目で感染症が急増していることがわかります。

**メリット3**

**感染症の流行状況を保健室だよりに簡単に掲載が可能**

システムでは「過去2週間」「過去1ヵ月」「年間」「全期間」で、感染症発生状況をグラフ化することが可能です。本校では保健室だよりにインフルエンザの発生状況を掲載する時、システムのインフルエンザによる欠席状況グラフを添付して発生の様子を活用しています。

**メリット4**

**昨年度の感染症発生状況を参考にできる**

本年度もインフルエンザ発生の時期を迎え、本校も例年通りインフルエンザが発生しています。本年度の発生状況を提示する際、昨年度の発生状況をシステムからプリントアウトして提示することで、今後の発生を予想しながら予防を啓発することができます。

**メリット5**

**システム入力により設置者への出席停止報告が完了**

鳥取県内の県立学校では、システムに出席停止者数を入力することにより、設置者への出席停止報告を行っています。システム導入以前はペーパーで設置者へ報告していましたが、感染症による出席停止者が発生した日にシステムに出席者数を入力することで設置者への報告は完了しています。システムでは出席停止期間が自動入力されますので、継続の場合毎日入力する必要はありません。このことは、インフルエンザが増える時期には事務量が軽減されることから大きなメリットといえます。

**メリット6**

**県健康福祉部からのお知らせが毎日トップページに掲載され、感染状況が一目でわかる**

鳥取県では、県健康福祉部からの県内感染症発生状況に関するお知らせがシステムのトップページに毎日記載されます。これにより、県内の感染症発生状況が一目でわかるとともに、県健康福祉部（県によっては教育委員会、保健所等が情報提供される場合もあります）の情報提供がタイムリーに伝わるという大きなメリットがあります。

**メリット7**

**感染症の状況を教育委員会、保健所、国立感染症研究所等で見守られている**

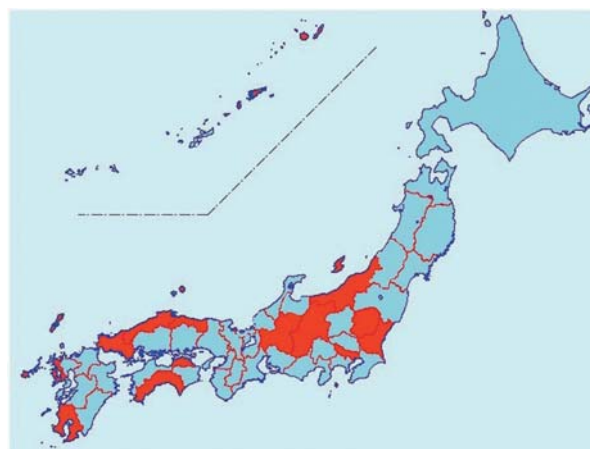
入力した感染症の状況は、同時に設置者、保健所、国立感染症研究所等が閲覧可能で、本校の状況が見守られているという安心にもつながります。また、特定の疾患（結核・麻しん・風しん・腸管出血性大腸菌感染症）を登録した場合は、教育委員会、保健所等にメール通知され、早期対応が組織的にされるというメリットがあります。

**4. おわりに**

鳥取県では、システムが2009年6月に全県立学校で実施、10月には県内小・中学校も含めて全校実施となり、同年の新型インフルエンザ発生時にはシステムによる全県の児童生徒の感染状況の把握が可能となりました。また、県内だけでなく隣の島根県も全県導入されていることから、隣接県の感染状況を把握する上でも大変有効でした。

2009年のように新型のインフルエンザウイルスによる感染症が発生した時には、一刻も早く全国規模での発生状況を把握して対応することが必要であり、システムを活用することでそれが可能となります。また、児童生徒の感染症発生状況を全ての学校等でタイムリーに情報共有することができることから、危機対応を行う上で重要な情報になると確信しています。

2011年12月末現在の全国のシステム導入状況は、稼働中の学校が15,065校（全学校の1/3）で、今後の導入校増加を期待しています。



集計日時：2012年2月14日 PM 1:28  
出席停止・疾患の登録（インフルエンザ）